

共通科目の内容		A		B		C		D		E	
科目	学ぶ事項	到達目標	学ぶ事項	到達目標	学ぶ事項	到達目標	学ぶ事項	到達目標	学ぶ事項	到達目標	
臨床病態生理学	1.臨床解剖学 2.臨床生理学 3.臨床病理学 4.臨床病態生理学演習	高度な看護実践に向けて、臨床病態（症状とメカニズム）について理解を深め、患者の身体を統合的に把握するための基礎知識を習得し、患者に対する援助方法や正常な機能へ戻すための方法について自ら考え、対策を立て、対処できる人材の育成を目標とする。）	臨床解剖学、臨床病理学、臨床生理学を学ぶ 1. 臨床解剖学 2. 臨床病理学 3. 臨床生理学	①人体の正常な機能や構造、およびその破綻や調節機能を理解し、年齢や状況に応じた病態の変化や治療の特性を包括的かつ迅速に判断できるよう必要な知識と技術を習得する。 ②多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントし、必要な治療を理解してケアを導くための基本的な能力を身につける	臨床解剖学および臨床生理学、さらには臨床病理学の病態を理解し、年齢や状況に応じた病態の変化や治療の特性を包括的かつ迅速に判断できるよう必要な知識と技術を習得する。 ②多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントし、必要な治療を理解してケアを導くための基本的な能力を身につける 1. 主要疾病の病態と臨床診断・治療を学ぶ。 脳血管障害/急性心筋梗塞/糖尿病/精神疾患 2. その他の主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 循環器系/呼吸器系/消化器系/腎泌尿器系/内分泌・代謝系/免疫・膠原病系/血液・リンパ系/神経系/小児科/産婦人科/精神系/感染症/運動器系/感覚器系/その他 3. 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習 4. 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習 看護師の特定行為研修制度の対応科目のひとつであり、精緻化による時間数の減少に対応して、『臨床病態生理学特論』と『疾病・臨床病態概論』を統合し、再構築した科目である。	看護師が適切に臨床実践するに際して、多様な臨床場面において、ケアを安全に実践するために、重要な病態の変化や必要となる治療の特性を包括的にいち早くアセスメントする基本的な能力を身につける。 ・代表的な疾患に関わる臓器の機能異常を説明できる。 ・代表的な疾患の病態や全身に及ぼす影響を説明できる。 ・多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントできる。 ・多様な臨床場面において必要な治療を理解し、ケアを導くことができる。	1.臨床解剖学・臨床病理学・臨床生理学を学び、病態生理学的变化を判断するための知識を習得する。 2.演習を通し、病態生理学的变化を判断するための知識を深める。	1. 正常な人体の構造と機能について説明できる。 2. 生体の恒常性の意義と一般的なメカニズムを理解し、恒常性が保たれるさまざまな調節機能と制御機構について説明できる。 3. 生体へ障害や疾病をもたらす侵襲因子・障害物質について理解し、それに対する免疫現象や炎症反応の過程、さらに内分泌系と生体防御のかかわりについて説明できる。 4. 疾患の病態、経過の把握のために必要な生理機能評価の方法と実際を理解する。	第1 はじめに 1 共通科目履修の目的と意義 2 臨床病態生理学の位置づけと意義～特定行為実践と臨床解剖学、臨床病理学、臨床生理学～ 3 効率的な学習のために：『特定行為』を意識した設問形式の導入 第2 特定行為対象患者における臨床病態生理学 1 看護師特定行為研修における必修「9区分16行為」とは 2 本章で説明するテーマ：臨床病態生理学の特徴 第4 スクーリング（症例検討）に向けた事前学習	・特定行為研修の「入門編」として、特定行為研修において共通科目を履修する目的と意義を確認する。 ・特定行為の実践につながる臨床解剖学、臨床病理学、臨床生理学を学ぶ。 ・共通科目の目的と意義は、特定行為「実践」の基盤となる「理論」の部分を涵蓋し、より研ぎ澄ますことである。医師の立場からいえば、「理論的基盤が脆弱な看護師には特定行為実践を任せられない」と最初に明言しておく。	
臨床推論	1.診療のプロセス 2.臨床推論（症候学を含む）の理論と演習 3.医療面接の理論と演習・実習 4.各種臨床検査の理論と演習 5.画像検査の理論と演習 6.臨床疫学の理論と演習	①主要な症候から疾患の診断ができるようになるために、知識を統合し、関連する病態生理を理解し、得られる情報を用いて論理的に推論する能力を身につける。 ②診療プロセスのために有用な医療面接、各種臨床検査や画像検査などの検査所見から得られる情報を説明できる。 ③各種臨床検査、画像検査を受ける対象者や家族に必要な支援ができる。	臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学を学ぶ 1. 診療のプロセス 2. 臨床推論（症候学を含む）の理論と演習 3. 医療面接の理論と演習・実習 4. 各種臨床検査の理論と演習 5. 心電図/血液検査/尿検査/病理検査/微生物学検査/生理機能検査/その他の検査 6. 画像検査の理論と演習 放射線の影響/単純エックス線検査/超音波検査/CT・MRI/その他の画像検査 7. 臨床疫学の理論と演習	①多様な臨床場面において患者の安心に配慮しつつ、必要な特定行為を安全に実践するための臨床推論および医療面接の知識と実践能力を身につける ②多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントし、必要な治療を理解してケアを導くための基本的な能力を身につける ③患者の診療に必要な情報源（医療面接、各種臨床検査、画像検査、臨床疫学など）を理解し、患者の意向や生活の質に配慮しつつ、患者の病態に基づいたケアが提案できる 1. 臨床推論とは 2. 診療のプロセス 3. 臨床推論（症候学を含む）の理論 4. 医療面接の理論 5. 各種臨床検査の理論 6. 画像検査の理論 7. 臨床疫学の理論 8. まとめ-EBM、生涯教育と行動の学習 ○特定行為共通科目統合演習 看護師の特定行為研修制度の対応科目である「医療安全学特論」又は「統合医療安全・特定行為実践特論」、「臨床推論」「フィジカルアセスメント特論」の演習をとおして、実践能力の基礎となる知識・技能の向上を図る。演習には、指定の以下の内容を含むものとする。 1. 医療安全に関する理論・原則、医療安全の推進に関わる制度・システム、医療施設における組織的な取り組みや実践例、患者との関わりについて、事例検討をとおして実践につながる能力を身につける。 2. 臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学について、以下の演習をとおして実践につながる能力を身につける。 ・臨床推論（症候学を含む）演習 ・医療面接演習 ・各種臨床検査演習 ・画像検査演習 ・臨床疫学演習 3. 看護師が適切に特定行為を遂行するために欠かすことのできない身体面に関する情報収集の方法論と所見の解釈についての理論に基づき、以下の演習をとおして技能の習得を目指す。 ・身体診察基本手技演習 ・部位別身体診察手技と所見演習	○臨床推論 看護師が特定行為を行う場合に必要とされる実践能力の基礎となる知識・技能の向上を図るために、臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学について学ぶ。看護師の特定行為研修制度の対応科目のひとつであり、指定の以下の内容を含むものとする。 1. 臨床推論とは 2. 診療のプロセス 3. 臨床推論（症候学を含む）の理論 4. 医療面接の理論 5. 各種臨床検査の理論 6. 画像検査の理論 7. 臨床疫学の理論 8. まとめ-EBM、生涯教育と行動の学習 ○特定行為共通科目統合演習 ・医療事故事例を分析し、対策を検討することができる ・臨床推論の基本的な考え方について説明できる ・症例に関する情報の収集・分析ができる ・得られた情報をもとにその症例の問題点を抽出できる ・生活者として「生きていく」ための身体機能のアセスメントを進め生活者を支える看護活動への指針を与えることができる。 ・生命体として「生きている」ことをモニタリングし、その逸脱の早期発見と適切な対処への連携を着実に果たせる医療者としての責務を果たすことができる。 ・多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントする基本的な能力を身につける。	○臨床推論 1.症候学、臨床検査・画像検査、臨床疫学を学び、演習を通して臨床推論に必要な知識を習得する。 ○医療面接 1.医療面接の理論と演習・実習を通して、症状の変化に必要な治療を理解し、ケアを導くための基本的な能力を身につけることを目標とする。 ・臨床推論の基本的な考え方について説明できる ・症例に関する情報の収集・分析ができる ・得られた情報をもとにその症例の問題点を抽出できる ○特定行為共通科目統合演習 ・医療安全の原理・原則を理解し、実践につなげることができる ・医療安全に関わる法、倫理、制度、システムを理解する ・医療事故事例を分析し、対策を検討することができる ・臨床推論の基本的な考え方について説明できる ・症例に関する情報の収集・分析ができる ・得られた情報をもとにその症例の問題点を抽出できる ・生活者として「生きていく」ための身体機能のアセスメントを進め生活者を支える看護活動への指針を与えることができる。 ・生命体として「生きている」ことをモニタリングし、その逸脱の早期発見と適切な対処への連携を着実に果たせる医療者としての責務を果たすことができる。 ・多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントする基本的な能力を身につける。	○臨床推論 1. 臨床において、患者の病態を正しく把握し、適切な治療方針が立てられるように、疾患の成り立ちと症状の関係と診療のプロセスについて説明できる。 2. 臨床検査の意義を理解し、疾患の診断と治療に必要な臨床検査と、画像検査の選択理由と検査結果の解釈について説明できる。 3. 臨床疫学の考え方を学び、根拠に基づく医療（EBM）を患者の診断・治療へ活用する方法について説明できる。 ○医療面接 1. 医療面接の理論と演習 2. 画像検査の理論と演習 3. スクーリングに向けた事前学習（症例検討） 第1 医療面接の理論と演習 1 医療面接の役割 2 医療面接の流れ 3 医療面接がうまくいかないとき 4 思い知らせを伝える（SPIKES モデル） 5 スクーリングに向けた事前学習（症例検討） 第4 各種臨床検査の理論と演習 1 心電図検査 2 血液検査 3 尿検査 4 病理検査 5 微生物学検査 6 主な生理機能検査 7 スクーリングに向けた事前学習（症例検討） 第5 画像検査の理論と演習 1 放射線の影響 2 単純X線検査 3 超音波検査 4 CT検査・MRI検査 5 その他の画像検査 6 スクーリングに向けた事前学習（症例検討） 第6 臨床疫学の理論と演習 1 臨床疫学で用いられる用語 2 スクーリングに向けた事前学習（症例検討）	臨床推論とは、「医師が臨床現場で様々な決定や判断を行うため、事象に対して仮説と検証を繰り返す、賢明にふるまう行動を選択する思考過程」である。従来、「診断」にかかわる臨床推論は医師の専権とされてきたが、チーム医療の価値観が重視されるのともなう、看護師にも求められるようになってきた。そこで本科目では、「臨床診断学」「臨床検査学」「症候学」「臨床疫学」の基本的な知識を学び、医師の思考パターンを知ることで、「知識と経験、五感と直感を駆使して仮説を設定し、科学的に検証し、判断」できる能力を身につけることを目標とする。			

共通科目の内容	A		B		C		D		E	
科目	学ぶ事項	到達目標	学ぶ事項	到達目標	学ぶ事項	到達目標	学ぶ事項	到達目標	学ぶ事項	到達目標
フィジカルアセスメント	1.身体診察基本手技の理論 2.部位別身体診察手技と所見の理論 3.全身状態とバイタルサイン（2）（症状別） 4.身体診察の年齢による変化 5.身体診察基本手技の演習・実習／部位別身体診察手技と所見の演習・実習	①日常的にみられる病態を系統的に理解し、より高度な看護実践に向け、病態生理学の状態をエビデンスに基づき判断できる知識・技術を身につける。 ②多様な臨床場面における重要な病態の変化や症状をいち早くアセスメントできる基本的な知識を身につける。 ③フィジカルアセスメントを活用し、症例に関する適切な情報収集・分析ができる。 ④病歴や身体所見などの情報を統合してアセスメントができ、今後必要となる処置や検査の予測ができる。	身体診察・診断学（演習含む）を学ぶ 1. 身体診察基本手技の理論と演習・実習 2. 部位別身体診察手技と所見の理論と演習・実習 3. 全身状態とバイタルサイン/頭頸部/胸部/腹部/四肢・脊柱/泌尿・生殖系/乳房・リンパ節/神経系 4. 状況に応じた身体診察 5. 身体診察の年齢による変化 6. 小児/高齢者 7. 在宅医療	①多様な臨床場面において患者の安心に配慮しつつ、必要な特定行為を安全に実践するためのフィジカルアセスメントの知識と実践能力を身につける ②多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントし、必要な治療を理解してケアを導くための基本的な能力を身につける ③患者年齢や状況に応じて、頭から爪先までの全身の系統的な身体診察と的を絞った身体診察を使い分け、手技を自分の型にする	○フィジカルアセスメント特論 看護師が適切に特定行為を遂行するために欠かすことのできない身体面に関する情報収集の方法論と所見の解釈についての理論と技能を習得することを旨とする。 1. 身体診察基本手技の理論 2. 部位別身体診察手技と所見の理論 3. 全身状態とバイタルサイン/頭頸部/胸部/腹部/四肢・脊柱/泌尿・生殖系/乳房・リンパ節/神経系 4. 状況に応じた身体診察 5. 身体診察の年齢による変化 6. 小児/高齢者 7. 在宅医療 ○特定行為共通科目統合演習 看護師の特定行為研修制度の対応科目である「医療安全学特論」又は「総合医療安全・特定行為実践特論」、及び「臨床推論」「フィジカルアセスメント特論」の演習をとおして、実践能力の基礎となる知識・技能の向上を図る。演習には、指定の以下の内容を含むものとする。 1. 医療安全に関する理論・原則、医療安全の推進に関わる制度・システム、医療施設における組織的な取り組みや実践例、患者との関わりについて、事例検討をとおして実践につなげる能力を身につける。 2. 臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学について、以下の演習をとおして実践につなげる能力を身につける。 ・臨床推論（症候学を含む）演習 ・医療面接演習 ・各種臨床検査演習 ・画像検査演習 ・臨床疫学演習 3. 看護師が適切に特定行為を遂行するために欠かすことのできない身体面に関する情報収集の方法論と所見の解釈についての理論に基づき、以下の演習をとおして技能の習得を目指す。 ・身体診察基本手技演習 ・部位別身体診察手技と所見演習	○フィジカルアセスメント特論 看護師が適切に臨床実践するに際して、対象の身体的情報を的確に捉え、それらを臨床場面における推論に結びつけていく必要がある。 1. 小児・高齢者の特徴をとらえたフィジカルアセスメント科目においては生活者として「生きていく」ための身体機能のアセスメントを進め生活者を支える看護活動への指針を与えることができるようになることともに、その根本にある生命体として「生きていく」ことをモニタリングし、その逸脱の早期発見と適切な対応への連携を着実に果たせる医療者としての責務を果たすことができるようになることを目指し、それに不可欠な知識および技能の理論を学ぶ。このことを通して、多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントする基本的な能力を身につけることを目標とする。 ○特定行為共通科目統合演習 ・医療安全の原理・原則を理解し、実践につなげることができる ・医療安全に関わる法、倫理、制度、システムを理解することができる ・医療事故事例を分析し、対策を検討することができる ・臨床推論の基本的な考え方について説明できる ・症例に関する情報の収集・分析ができる ・得られた情報をもとにその症例の問題点を抽出することができる ・生活者として「生きていく」ための身体機能のアセスメントを進め生活者を支える看護活動への指針を与えることができる。 ・生命体として「生きている」ことをモニタリングし、その逸脱の早期発見と適切な対応への連携を着実に果たせる医療者としての責務を果たすことができる。 ・多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントする基本的な能力を身につける。	○基礎 1.身体診察の基本手技を理解し、実践できる。 ○応用 1.小児・高齢者の特徴をとらえたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。 2.部位別身体診察手技を理解し、得られた所見を説明できる。 ○応用 1.身体診察の年齢による変化を理解し、説明できる。 2.状況に応じた身体診察を理解し、説明できる。 3.年齢、状況に応じたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。	○基礎 1.身体診察基本手技、部位別身体診察手技を理解し実践できる。 ○応用 1.身体診察の年齢による変化を理解し、説明できる。 2.状況に応じた身体診察を理解し、説明できる。 3.年齢、状況に応じたフィジカルアセスメントに関する重要事項（状況に応じた身体診察：急性期/慢性期、救急医療/在宅医療） 第3 スクリーニングに向けた事前学習（身体診察・診断学演習） ☒スクリーニング（集合研修）：症例検討・ロールプレイ ☒看護治療用実習用マネキンを用いた実技指導・ロールプレイ ☒身体診察基本手技、部位別身体診察手技と所見） ☒	第1 はじめに 1 本科目で学ぶ内容 2 身体診察とバイタルサイン 第2 フィジカルアセスメントの実践① フィジカルアセスメントに関する基礎知識 ・身体診察基本手技の理論 ・部位別身体診察手技と所見の理論 ・全身状態とバイタルサイン/頭頸部/胸部/腹部/四肢・脊柱/泌尿・生殖系/乳房・リンパ節/神経系 多様な臨床場面でのフィジカルアセスメントに関する重要事項 （状況に応じた身体診察：急性期/慢性期、救急医療/在宅医療） 第3 スクリーニングに向けた事前学習（身体診察・診断学演習） ☒スクリーニング（集合研修）：症例検討・ロールプレイ ☒看護治療用実習用マネキンを用いた実技指導・ロールプレイ ☒身体診察基本手技、部位別身体診察手技と所見） ☒	特定行為の実践を想定したフィジカルアセスメント（身体診察・診断学）を学び、特定行為の範囲であるかどうかを判断できるアセスメント能力を身につける。
臨床薬理学	1.薬物動態の理論と演習 2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習/3.主要薬物の相互作用の理論と演習 4.主要薬物の安全管理と処方論の理論と演習	①薬剤学・薬理学の基礎知識を深め、薬物投与の基本概念を理解できる。 ②薬物の作用機序、生体内動態、及び薬理作用と副作用の関係の説明ができる。 ③各種疾病の基本的な病態生理を考慮した上で、薬理学的根拠に基づいた適切な治療薬物の効果的な使用方法を検討できる。 ④主要薬物の安全管理と処方論を理解できる。	薬剤学、薬理学を学ぶ 1. 薬物動態の理論と演習 2. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習 3. 主要薬物の相互作用の理論と演習 4. 主要薬物の安全管理と処方論の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む検討できる。	①多様な臨床場面において必要な治療を理解し、患者の安心に配慮しつつ、ケアや特定行為を安全に実践する能力を身につける ②主要な疾患別の治療薬および予防薬の作用機序、体内動態、薬理作用、副作用、相互作用、投与方法、投与後のモニタリングについての基本的な知識を身につける ③薬剤学・薬理学の基礎知識を深め、安全管理と処方論を理解できる	薬理学・薬剤学の基礎知識を深め、主要な疾患別の治療薬ならびに予防薬の薬効、作用機序、副作用、リスクマネジメント等、臨床における薬物の理論と実際について学習する。また、小児、女性、高齢者等、年齢による特性、個体差のある薬理作用と主要薬物の安全管理を学ぶ。看護師の特定行為研修制度の対応科目のひとつである。指定の以下の内容を含むものとする。 1. 薬物動態の理論と演習 2. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習 3. 主要薬物の相互作用の理論と演習 4. 主要薬物の安全管理と処方論の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	・薬理学・薬剤学の基礎知識を深め、薬物治療の基本概念を理解できる。 ・薬物の作用機序、生体内動態、及び薬理作用と副作用の関係を説明できる。 ・各種疾病の病態生理や病状を考慮した上で、薬理学的根拠に基づいた適切な治療薬物の使用方法を検討できる。 ・主要薬物の安全管理と処方論を理解できる。	○薬物動態 1. 安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態について理解する。 ○薬理作用 1. 安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態を踏まえた薬物の作用機序と、主要薬物の薬理作用・副作用について理解する。 ○薬物治療・管理 1. 安全確実な薬剤投与・管理を行うため、主要薬物の相互作用、主要薬物の安全管理・処方について理解する。	○薬物動態 1. 薬物の投与経路について説明できる。 2. 薬物血中濃度について説明できる。 3. 薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）について説明できる。 ○薬理作用 1. 薬物の効果と副作用を理解できる。 2. 時間薬理学、薬理遺伝学について理解できる。 3. 主要薬物の薬理作用・副作用について説明できる。 ○薬物治療・管理 1. 主要薬物の相互作用について理解できる。 2. 対象による特性を踏まえた薬物治療の影響について理解できる。 3. 主要疾患の薬物治療について理解できる。 4. 医薬品の管理方法や医薬品情報の利用方法が理解できる。	第1 はじめに 1 本科目の構成 2 薬理学とはどのような学問か 第2 医師国家試験問題から学ぶ「臨床薬理学」①☒ 臨床薬理学に関する基礎知識（年齢による特性（高齢者/小児を含む） ・薬物動態の理論 ・主要薬物の薬理作用と相互作用の理論 ・主要薬物の安全管理と処方論 第3 医師国家試験問題から学ぶ「臨床薬理学」②☒ 多様な臨床場面での臨床薬理学に関する重要事項（年齢による特性（高齢者/小児を含む） ・薬物動態の理論 ・主要薬物の薬理作用と相互作用の理論 ・主要薬物の安全管理と処方論 第4 スクリーニングに向けた事前学習（症例検討） ☒スクリーニング（集合研修）：症例検討	学問としての「臨床薬理学」ではなく、あくまで特定行為実践に必要な薬剤学、薬理学のエッセンスを学ぶ。
疾病・臨床病態概論	主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 1.救急医療の臨床診断・治療の特性と演習 2.在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習	①頻度の高い主要疾患の診断・治療を理解する。 ②状況に応じた臨床診断・治療（救急医学、在宅医療等）を理解する。 ③臨床診断プロセスに必要な思考過程を身につける。	主要疾患と臨床診断・治療を学ぶ 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 循環器系/呼吸器系/消化器系/腎泌尿器系/内分泌・代謝系/免疫・膠原病系/血液・リンパ系/神経系/小児科/産婦人科/精神系/運動器系/感覚器系/感染症/その他 状況に応じた臨床診断・治療を学ぶ 1. 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習 2. 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習	①主要疾患の病態生理、臨床像、診断、治療を理解する ②年齢（小児、高齢者など）や状況（救急医療、在宅医療など）に応じた臨床診断・治療の特性を理解する ③多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントし、必要な治療を理解してケアを導くための基本的な能力を身につける	臨床解剖学および臨床生理学、さらには臨床病理学の原形を理解し、年齢や状況に応じた病態の変化や治療の特性を包括的かつ迅速に判断できるよう必要な知識と技術を学習する。また、主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ。 1. 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 2. 脳血管障害/急性心筋梗塞/糖尿病/精神疾患 3. その他の主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 4. 循環器系/呼吸器系/消化器系/腎泌尿器系/内分泌・代謝系/免疫・膠原病系/血液・リンパ系/神経系/小児科/産婦人科/精神系/感染症/運動器系/感覚器系/その他 5. 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習 6. 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習 7. 看護師の特定行為研修制度の対応科目のひとつであり、精鋭化による時間数の減少に対応して、『臨床病態生理学特論』と『疾病・臨床病態概論』を統合し、再構築した科目である。	看護師が適切に臨床実践するに際して、多様な臨床場面において、ケアを安全に実践するために、重要な病態の変化や必要となる治療の特性を包括的にいち早くアセスメントする基本的な能力を身につける。 ・代表的な疾患に関わる臓器の機能異常を説明できる。 ・代表的な疾患の病態や全身に及ぼす影響を説明できる。 ・代表的な疾患の病態の発症と治療について説明できる。 ・多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントできる。 ・多様な臨床場面において必要な治療を理解し、ケアを導くことができる。	○疾病・臨床病態概論 1. 主要疾患の病態と臨床診断・治療を理解する ○状況別 1. 状況に応じた臨床診断・治療（救急医療、在宅医療等）を理解する。	○疾病・臨床病態概論 1. 患者の病態を判断する能力をつけるために頻度の高い疾患の診断と治療を理解する。 2. 患者の病態を判断する能力をつけるために年齢に応じた身体の特徴と病態の変化を理解する。 ○状況別 1. 患者の病態を判断する能力をつけるために状況に応じた身体の特徴と病態の変化について理解できる。 2. 救急医療の特徴を理解することにより、救急患者への対応や重症化予防の重要性について理解できる。 3. 在宅医療の特徴を理解することにより、在宅患者への対応について理解できる。	第1 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論① 1 本科目で学ぶ内容：総合診療の視点から 2 高齢者総合機能評価（CGA） 第2 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論② 医師国家試験問題から学ぶ「疾病・臨床病態概論」疾病・臨床病態概論に関する基礎知識 第3 多様な臨床場面での疾病・臨床病態概論に関する重要事項（状況に応じた臨床診断・治療を学ぶ：在宅医療/救急医療） 第4 スクリーニングに向けた事前学習（症例検討）	臨床の現場ではどの器官系の病気であるかが最初から判明しているとは限らない。そこでは、複数科にまたがる臓器横断的な「総合診療」の視点が求められる。共通科目編第1章から第4章までの総論、集大成的な位置づけである本科目では、多彩な「疾病」を中心として「臨床診断」および「治療」を学び、総合診療医の視点について理解を深める。

共通科目の内容	A		B		C		D		E			
科目	学ぶ事項	到達目標	学ぶ事項	学ぶ事項	到達目標	学ぶ事項	到達目標	学ぶ事項	到達目標			
医療安全学	<p>1. 特定行為実践に関する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証（Quality Care Assurance）を学ぶ。</p> <p>2. 特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践（IPW）（他職種との事例検討等の演習を含む）を学ぶ。</p> <p>3. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ。</p> <p>4. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ。</p> <p>5. 特定行為の実践におけるアセスメント、仮設検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ。</p>	<p>① 特定行為実践に関する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証（Quality Care Assurance）を学ぶ。</p> <p>② 特定行為実践するための患者の安全・安心の保証や、多職種協働を推進するための課題と方策を理解する。</p> <p>③ 多職種協働実践（Inter Professional Work (IPW)）（他職種との事例検討等の演習を含む）の知識と実践能力を身につける。</p> <p>④ 特定行為関連法規について理解し応用できる。インフォームドコンセントの歴史について理解し、応用できる。</p> <p>⑤ 手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後手順を評価し見直すプロセスを習得する。</p>	<p>特定行為の実践におけるアセスメント、仮設検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で以下の内容を統合して学ぶ。</p> <p>1. 特定行為実践に関する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証（Quality Care Assurance）を学ぶ。</p> <p>① 医療倫理</p> <p>② 医療管理</p> <p>③ 医療安全</p> <p>④ ケアの質保証</p> <p>2. 特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践（Inter Professional Work (IPW)）（他職種との事例検討等の演習を含む）を学ぶ。</p> <p>① チーム医療の理論と演習</p> <p>② チーム医療の事例検討</p> <p>③ コンサルテーションの方法</p> <p>④ 多職種協働の課題</p> <p>3. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ。</p> <p>① 特定行為関連法規</p> <p>② 特定行為実践に関する患者への説明と意思決定支援の理論と演習</p> <p>4. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ。</p> <p>① 手順書の位置づけ</p> <p>② 手順書の作成演習</p> <p>③ 手順書の評価と改良</p>	<p>① 医療安全の原理・原則を理解し、多様な臨床場面で患者の安心に配慮しつつ、必要な特定行為を安全に実践するための能力を身につける。</p> <p>② 医療安全に関わる法、倫理、制度、システムを理解する。</p> <p>③ 患者および医療従事者にとって安全な医療の遂行に向けて、多職種と効果的に協働する能力を身につける。</p> <p>④ 医療事故事例を分析し、医療事故防止および事故後の対応ができる。</p> <p>⑤ 問題解決に向けて多職種と効果的に協働する知識と実践能力を身につける。</p> <p>⑥ 医療者、患者・家族がともに納得できる医療を行うためのインフォームド・コンセントが実施できる。</p> <p>⑦ 多様な臨床場面で患者の安心に配慮しつつ、必要な特定行為を安全に実践するためのアセスメント、仮設検証、意思決定の知識と実践能力を身につける。</p> <p>⑧ 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直す知識と実践能力を身につける。</p> <p>⑨ 自らの看護実践を見直しつつ、標準化する能力を身につける。</p>	<p>○統合医療安全・特定行為実践特論</p> <p>看護師が適切に特定行為を遂行するために、自らの看護実践を見直しつつ標準化する能力を身につけることを目指す。看護師の特定行為研修制度の対応科目のひとつであり、2019年4月の省令改正に対応し、「医療安全学特論」と「特定行為実践特論」を統合し、指定の以下の内容を含むものとする。</p> <p>特定行為の実践におけるアセスメント、仮設検証、意思決定、検査・診断過程（理論、演習）を学ぶ中で以下の内容を統合して学ぶ。</p> <p>1. 特定行為実践に関する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証（Quality Care Assurance）を学ぶ。</p> <p>① 医療倫理</p> <p>② 医療管理</p> <p>③ 医療安全</p> <p>④ ケアの質保証</p> <p>2. 特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践（Inter Professional Work (IPW)）を学ぶ。</p> <p>① チーム医療の理論</p> <p>② チーム医療の事例検討</p> <p>③ コンサルテーションの方法</p> <p>④ 多職種協働の課題</p> <p>3. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ。</p> <p>① 特定行為関連法規</p> <p>② 特定行為実践に関する患者への説明と意思決定支援の理論と演習</p> <p>4. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ。</p> <p>① 手順書の位置づけ</p> <p>② 手順書の作成演習</p> <p>③ 手順書の評価と改良</p> <p>○特定行為共通科目統合演習</p> <p>看護師の特定行為研修制度の対応科目である「医療安全学特論」又は「統合医療安全・特定行為実践特論」、「臨床推論」「フィジカルアセスメント特論」の演習をとおして、実践能力の基礎となる知識・技能の向上を図る。演習には、指定の以下の内容を含むものとする。</p> <p>1. 医療安全に関する理論・原則、医療安全の推進に関わる制度・システム、医療施設における組織的な取組みや実践例、患者との関わりについて、事例検討をとおして実践につなげる能力を身につける。</p> <p>2. 臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学について、以下の演習をとおして実践につなげる能力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床推論（症候学を含む）演習 ・医療面接演習 ・各種臨床検査演習 ・画像検査演習 ・臨床疫学演習 <p>3. 看護師が適切に特定行為を遂行するために欠かすことのできない身体面に関する情報収集の方法論と所見の解釈についての理論に基づき、以下の演習をとおして技能の習得を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体診察基本手技演習 ・部位別身体診察手技と所見演習 	<p>○統合医療安全・特定行為実践特論</p> <p>特定行為実践の法的根拠や基盤となる技術を理解する。</p> <p>・特定行為実践の具体的方法を理解し、特定行為を手順書により行う看護師に必要な専門的能力を身につける。</p> <p>・多職種協働実践の理論と方法を理解し、医療現場におけるチーム医療の実践と課題について考察する。</p> <p><通知改正における到達目標></p> <p>・医療安全の原理・原則を理解し、実践につなげることができる。</p> <p>・医療事故事例を分析し、対策を検討することができる。</p> <p>・臨床推論の基本的な考え方について説明できる。</p> <p>・症例に関する情報の収集・分析ができる。</p> <p>・得られた情報をもとにその症例の問題点を抽出できる。</p> <p>・生活者として「生きていく」ための身体機能のアセスメントを進め生活者を支える看護活動への指針を与えることができる。</p> <p>・生命体として「生きている」ことをモニタリングし、その逸脱の早期発見と適切な対応への連携を着実に果たせる医療者としての責務を果たすことができる。</p> <p>・多様な臨床場面で重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントする基本的な能力を身につける。</p>	<p>○医療倫理</p> <p>1. 実践の場において、対象の人権擁護・知る権利・自律性（自己決定）を尊重した看護を提供するため、医療倫理についての理解を深め、実践活動にどのように反映できるかを考察する。</p> <p>○医療安全管理</p> <p>1. 医療現場における安全管理をめぐる取り組みの経緯、医療事故発生時の初期対応、その後の対応に関する基本的原則を理解できる。</p> <p>2. ケアの質保証について理解できる。</p> <p>○医療安全管理</p> <p>1. 医療現場における安全管理をめぐる取り組みの経緯、医療事故発生時の初期対応、その後の対応に関する基本的原則を理解できる。</p> <p>2. ケアの質保証と医療安全との関連が理解できる。</p>	<p>○医療倫理</p> <p>1. 医療倫理の四原則が理解できる。</p> <p>2. 看護実践で直面する倫理的問題と倫理的ジレンマの構造について理解できる。</p> <p>3. 医療安全に必要な医療倫理について理解できる。</p> <p>4. 医療現場の倫理的問題を、臨床倫理の四分割法を用いて検討できる。</p> <p>○医療安全管理</p> <p>1. 医療現場における安全管理をめぐる取り組みの経緯、医療事故発生時の初期対応、その後の対応に関する基本的原則を理解できる。</p> <p>2. 多職種と連携を図り、医療安全管理体制について理解できる。</p> <p>3. 医療事故を防止するための情報収集・分析・対策立案・評価・フィードバックの方法を理解できる。</p> <p>4. 医療事故発生時の初期対応、その後の対応に関する基本的原則を理解できる。</p> <p>5. ケアの質保証と医療安全との関連が理解できる。</p>	<p>○チーム医療論（特定行為実践）</p> <p>1. 質の高い医療・看護の効果的・効率的な提供に向けたチーム医療の推進について考察する。また、多職種協働の課題及び集団や組織の目標・課題を達成する上で必要なリーダーシップについて理解する。</p> <p>○特定行為実践</p> <p>1. 特定行為実践のための関係法規を理解する。特定行為の実践に向け、根拠に基づいた手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後に再評価するプロセスについて理解する。</p> <p>2. 特定行為の実践におけるアセスメント、仮設検証、意思決定、検査・診断過程を理解する。</p>	<p>○チーム医療論（特定行為実践）</p> <p>1. 多様な臨床場面でチーム医療を推進するための知識と実践能力を身につける。</p> <p>2. 多様な臨床場面で患者の安全に配慮しつつ、必要な特定行為を安全に実践する能力を身につける。</p> <p>3. 問題解決に向けて多職種と効果的に協働する能力を身につける。</p> <p>○特定行為実践</p> <p>1. 特定行為実践にまつる関連法規及び法的責任を理解できる。</p> <p>2. 特定行為実践における意思決定支援を実践できる。</p> <p>3. 手順書の位置づけ及び活用について説明できる。</p> <p>4. 手順書を作成できる。</p>	<p>第1 医療倫理</p> <p>1 医療倫理総論</p> <p>2 臨床倫理の実践</p> <p>3 スクーリングに向けた事前学習（グループディスカッション）</p> <p>第2 医療管理</p> <p>1 医療管理総論</p> <p>2 医療管理事例</p> <p>3 スクーリングに向けた事前学習（事例検討）</p> <p>第3 医療安全</p> <p>1 医療安全総論</p> <p>2 医療安全の実践</p> <p>3 スクーリングに向けた事前学習（事例検討）</p> <p>第4 ケアの質保証</p> <p>1 ケアの質保証総論</p> <p>2 ケアの質保証の実践</p> <p>3 スクーリングに向けた事前学習（事例検討）</p> <p>☑</p> <p>☑</p>	<p>・特定行為実践に関連する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証（Quality Care Assurance）を学ぶ。</p> <p>・多職種と協働しながら必要な特定行為を安全に実践し、自らの看護実践を見直しつつ標準化する能力を身につけることを目標とする。</p>
特定行為実践								<p>第1 チーム医療の理論</p> <p>1 「チーム医療」と「チーム医療のキーパーソン」</p> <p>2 慢性期医療における「チーム医療」</p> <p>第2 チーム医療の事例検討（演習）</p> <p>医師国家試験問題から学ぶ「チーム医療」～多職種協働を考へる 誤嚥性肺炎の症例をとおして～</p> <p>第3 コンサルテーションの方法</p> <p>1 コンサルテーションとは</p> <p>2 コンサルテーションにおけるコミュニケーション・スキル的重要性</p> <p>第4 多職種協働の課題 課題解決のために</p> <p>1 医療倫理学、臨床倫理学の重要性</p> <p>2 円滑なタスクシェアリング、タスクシフティングの実現</p> <p>3 医師の協力体制への理解</p> <p>第5 特定行為関連法規</p> <p>1 看護師特定行為研修制度</p> <p>2 関連法規</p> <p>第6 特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援</p> <p>1 インフォームドコンセントの法理</p> <p>2 医療倫理的に考へる：認知症患者の事例より</p> <p>第7 手順書の位置づけ</p> <p>1 手順書とは</p> <p>2 手順書に求められるもの</p> <p>3 手順書をめぐる問題</p> <p>第8 手順書の作成演習（評価・改良を含む）実際の手順書（例）で学ぶ。</p> <p>1 気管カニューレの交換</p> <p>2 脱水症状に対する輸液による補正</p> <p>3 感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与</p> <p>4 持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整</p> <p>第9 看護師特定行為研修制度の現状と課題</p> <p>1 看護師特定行為研修制度の現状</p> <p>2 「チーム医療のキーパーソン」としての役割を推進</p> <p>3 受講者・修了者・指導者の質の担保</p> <p>第10 スクーリングに向けた事前学習（症例検討）</p>	<p>・特定行為の実践におけるアセスメント、仮設検証、意思決定、検査・診断過程を学び、なぜ看護師が「チーム医療のキーパーソン」であるのかを考へる。</p> <p>・特定行為の実践における多職種協働実践（Interprofessional Work：IPW）を学ぶ。</p> <p>・特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ。</p> <p>・手順書の位置づけ、作成、評価、改良について学ぶ。</p>			